

確率統計基礎講義 A

若木宏文

wakaki@hiroshima-u.ac.jp

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/wakaki/lecture/index.shtml>

2019.5.15

目次

非心カイ 2 乗分布 分布の特性

3.3. 非心カイ 2 乗分布

定義 1

確率密度関数

$$f(y; n, \delta) = \begin{cases} \frac{1}{2^{n/2}} e^{-(y+\delta)/2} \sum_{j=0}^{\infty} \left(\frac{\delta}{4}\right)^j \frac{y^{n/2+j-1}}{j! \Gamma[n/2 + j]} & (y > 0) \\ 0 & (y \leq 0) \end{cases}$$

$$(n \in \mathbb{N}, \delta \geq 0)$$

によって定まる連続型分布を **自由度 n , 非心度 δ の非心カイ 2 乗分布** といい $\chi_n^2(\delta)$ と表す.

注意 3.3.1) 一般的な定義では, n は自然数である必要はない.

注意 3.3.2) $\delta = 0$ のとき, 非心カイ 2 乗分布はカイ 2 乗分布に一致する.

定義 2

Z_1, \dots, Z_n は互いに独立とし, $Z_j \sim N(\mu_j, 1)$ ($j = 1, \dots, n$) とする. $Y = \sum_{j=1}^n Z_j^2$ とおく. Y の従う分布を自由度 n , 非心度 δ の非心カイ 2 乗分布といい, $Y \sim \chi_n^2(\delta)$ と表す. ただし, $\delta = \sum_{j=1}^n \mu_j^2$

注 3.3.3) こちらの定義を用いる方が多い。

注 3.3.4) Y の確率密度関数は, 定義 1 の $f(y; n, \delta)$ となる。

注 3.3.5) 定義 2 より, X_1, \dots, X_n は互いに独立で $X_j \sim N(\mu_j, \sigma^2)$ ($j = 1, \dots, n$) ならば

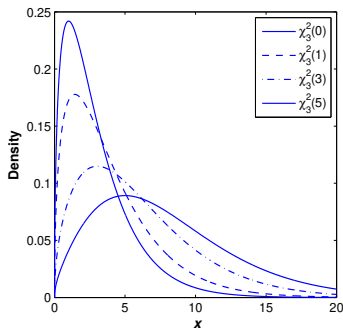
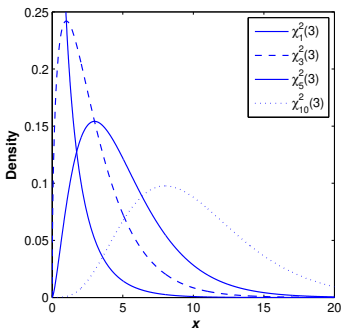
$$Y = \frac{1}{\sigma^2} \sum_{j=1}^n X_j^2 \sim \chi_n^2(\delta), \quad \delta = \frac{1}{\sigma^2} \sum_{j=1}^n \mu_j^2$$

Memo

Memo

分布の特性

1. 自由度 n , 非心度 δ の非心カイ 2 乗分布は右に歪んだ分布であり, n と δ はともに位置とばらつきの両方に関わる母数である。また, n または δ が大きくなれば正規分布に近づく



Memo

分布の特性 (続き)

2. $p_j(\delta) = e^{-\delta/2}(\delta/2)^j/j!$ ($j = 0, 1, 2, \dots$) とし, $f(n; k)$ を χ_k^2 分布の確率密度関数とすると

$$f(y; n, \delta) = \sum_{j=0}^{\infty} p_j(\delta) f(y; n + 2j)$$

3. $Y \sim \chi_n^2(\delta)$ の特性関数は

$$\mathcal{C}(t) = (1 - 2it)^{-n/2} \exp\left(\frac{it\delta}{1 - 2it}\right) \quad (t \in \mathbb{R})$$

4. $Y \sim \chi_n^2(\delta)$ のとき

$$E[Y] = n + \delta, \quad \text{Var}[Y] = 2(n + 2\delta)$$

5. 再生性: Y_1, Y_2 は独立で, $Y_1 \sim \chi_{n_1}^2(\delta_1)$, $Y_2 \sim \chi_{n_2}^2(\delta_2)$ のとき $Y_1 + Y_2 \sim \chi_{n_1+n_2}^2(\delta_1 + \delta_2)$ となる。

Memo

Memo